

第35回放射性廃棄物ワーキンググループにおける  
「地層処分に係る社会的側面に関する研究支援事業」に対する  
ご意見への対応について

「第35回総合資源エネルギー調査会放射性廃棄物ワーキンググループ」(2019年11月29日開催)において寿楽委員より示された「地層処分に係る社会的側面に関する研究支援事業」に対するご意見に対し、理事長の近藤より、

- ▶ この事業は、独立して中立的に運営されることが大事であることから、第三者のシンクタンクに委託して、外部有識者から構成される運営委員会を設置して実施し、研究の中間評価を行って、最終報告会を開催して終了している。この会合における報告と質疑はウェブサイトで見えていただける。NUMOは研究の学術的評価に意見を述べる立場にはないが、現在、次年度に向けてこの事業を準備していることから、ご意見を真摯に受け止め、利益相反の管理については、学界の最近の倫理基準の動向を含めて、関係者からの意見を踏まえて、改善すべき点があれば改善していきたい。
- ▶ NUMOのウェブサイトについては、日々改善をしている。本事業の成果はお知らせ欄に掲載するよう指示したが、この欄にはPRライブラリーしかないように見え、ご指摘の誤解が生じるおそれがあるので、レイアウト変更を指示したところ。

旨を回答いたしました。

機構としては、本支援事業が地層処分に係る社会的側面の研究の一層の活発化と広がり  
に資するものとなるよう、次回の支援事業を実施するにあたっては以下の改善をいたします。

1. 利益相反マネジメントの強化

事業の公正性に対する機構の姿勢をより明確にする観点から、研究支援に応募する研究者に対して機構および運営委員会との利害関係の有無をはじめこれまでの原子力事業に関連する研究実績の申告を求め、支援を受けた研究者に対して研究報告書等に上記内容の記載を求め、その他必要となる事項について既往の支援事業スキームを参照して整備することなど、委託先に対して「利益相反マネジメント」の強化を求めます。

2. 研究者との意見交換等のあり方の改善

研究の適切な遂行や研究成果の共有等に資するため、研究者の自律性に配慮しつつ研究者との意見交換等が効果的に行われるよう、工夫してまいります。

3. ホームページ上の掲載場所の見直し

本支援事業に係る情報のホームページ上の掲載場所について見直しをいたしました。